

能登教区通信

発行責任者 真宗大谷派 能登教務所長 篠原 亨栄

このたび、標記通信2017年5月号を発行いたしましたので、ご一読のほどお願い申し上げます。

教区教化事業のご案内

◆教区同朋大会について◆ 総合教化本部

- ・日時 2017年6月4日(日) 10時半～15時迄
- ・会場 能登教務所(済美精舎) ・テーマ「つながりの再生」
- ・講師 真城 義麿 氏(四国教区善照寺住職 真宗大谷学園専務理事)
- ・参加費 1,000円(弁当付 要事前申込)

詳細は3月号同封のチラシにてご確認の上、是非とも有縁の皆様幅広くお呼びかけください。なお、参加券は組長事務所にありますので、**5月19日(金)までに**事前に参加費と引き換えにお受け取りください。また、大掃除及び事前準備を**5月31日(水)9時から**行ないますので、お誘いあわせの上ご参加ください。1人でも多くの皆様のご協力をお願いいたします。

◆こころの広場◆ 同朋会推進部門

- ・日時 2017年5月20日(土) 午後2時～4時
- ・講師 藤場 芳子 氏(金沢教区 常讃寺)
- ・講題 御同朋・御同行とこそかしずきて
- ・参加費 500円

◆真宗に学ぶつどい◆ 研修部門

- ・日時 第1回5月19日(金)、第2回6月20日(火)、第3回7月20日(木) 午後7時～8時30分
- ・講師 瓜生 崇氏(京都教区 玄照寺)
- ・テーマ 人はなぜ弔うのか？-真宗の教えと葬儀-
- ・参加費 1回500円
- ・備考 教師陞補第1種認定の講座です。3回全ての出席で受講証を発行します。

◆大無量寿経講義◆ 研修部門

- ・日時 2017年5月22日(月) 午後1時30分～23日(火) 午後2時30分
- ・講師 本多 弘之 氏(親鸞仏教センター所長)
- ・持ち物 『真宗聖典』、念珠、間衣・輪袈裟(有僧籍者のみ)、筆記用具等
- ・参加費 1,000円
- ・備考 教師陞補第2種認定の講座です。また、初日の日程終了後、懇親会を予定しております。

※上記の全ての研修会は、どなたでもご参加いただけます。

◆てらカレ部-あみだ食堂-について◆ 時代社会部門

現在、時代社会部門では閉塞感のある社会の中で、特に中学生世代の居場所づくりとなることを願い、「てらカレ部-あみだ食堂-」を企画し、6月からの開催をめざし、協議を進めています。平日夕方に教務所の一室でカレーを食べたり、おしゃべりしたり、遊んだりしながら交流をしていく内容です。

つきましては、カレーに使用する食材(人参・ジャガイモ・玉ネギ等)を提供いただける方は教務所までお持ちください。なお、鮮度の都合上持ち込みは6月に入ってからお願いいたします。また大人数を想定したものではありませんので、持ち込みは少量でお願いいたします。併せて、娯楽用のおもちゃ(トランプ、かるた、オセロ、将棋など)を提供いただける方は是非教務所までお知らせください。

教化事業・その他行事のご報告

◆得度事前研修会◆ 研修部門主催



去る、3月4日(土)及び29日(水)に得度事前研修会が行われた。当研修会は得度して僧侶になることを希望される方を対象に毎年実施している。今年度も昨年度と同様に1日の研修会を2回行う方式で、13歳以下の子どもと14歳以上の2班に分かれて行われ、9名の参加があった。

第1回の研修会では、僧侶として必須である声明作法を中心に講習会が開催された。講師に教区声明会より伊賀正道氏(第14組 信行寺)と濤 恵周氏(第10組長覺寺)を迎え、正信偈、三淘念仏・和讃、回向、お経(13歳以下は阿弥陀経、14歳以上は浄土三部経)の練習を講師の指導のもと行った。そして、第2回は、まず、はじめに奥村文秀氏(第1組本乗寺)と江尻晃邦氏(第14組蓮淨寺)から得度の意義についての講話があった。その後、講師に教区声明会の松下文映氏(第10組往還寺)と藤井良秀氏(第13組明願寺)を迎え、第1回に引き続き、声明作法の講習が行われ、僧侶になるための研鑽が積まれた。

◆花まつり◆ 青少幼年部門主催



去る、3月26日(日)に教区 初参式・花まつり ～小さなお手てをあわせましょ～が開催された。初参式には11家族19名の申込みがあり、また、当日午後から開催される子どものつどい参加者の小学生も一緒に参加し、子どもから大人まで50名近くで大変賑やかしくなった。

第一部本堂では「ちかい」の唱和から始まり、小学生による供灯供華、勤行、灌仏と、厳かに式が営まれた。その後、実行委員によるお釈迦様誕生物語のパネルシアターを楽しみ、法話を聞いた。

第二部白象行進では教務所近辺を元気に行進。

第三部はお楽しみ。お馴染み「七尾マジック同好会」によるマジックショー、七尾軽音楽サークルの演奏を楽しみ、実行委員手づくりの縁日を楽しんだ。

花まつりをご縁に、誕生・いのちの尊さを家族で話し合い、聞法生活が始まることを願う。〈青少幼年部門 部長 崖 超 記〉



◆春の子どもつどい◆ 青少幼年部門主催



寒さがゆるみ周りの景色が徐々に春めいてくる時期、済美精舎にひととき元気な子どもたちのお念仏の声が響いた。

今年は3月26日(日)の午前中に花まつりを行い、午後から翌日の27日(月)まで子どもつどいが行われた。これは花まつりから引き続いて子どもつどいに参加していただくことで、それぞれの参加者や保護者にお互いの活動を、周知させることが目的であった。

今年の子どものつどいは20名の参加があり、「見えないものを見てみよう」というテーマで絵本作りをした。講師に高田教区の虎石 薫氏をお迎えし、円だけを用いて描く絵本や、絵の具を使ってオノマトペ(擬声語)を絵にしてみたりとユーモラスに教えて頂いた。そして、一人一人が思う私の～いきてるってなあに～を絵にかき、班ごとに絵本にしてそれぞれ発表した。一人一人違ったいきてるってなあにが絵本という形になることで、子どもたちの旺盛な発想力に驚き、あらためて私たちの思いを超えたいのちの深さを知らされた。〈青少幼年部門 藤原 彰洋 記〉



◆教区部落差別問題研修会◆同朋社会推進協議会主催

去る4月5日(水)、伊波敏男氏(長野大学客員教授)を講師にお迎えし、『病み棄ての戻り道』という講題にて標記研修会が開催された。今回は、ハンセン病問題を中心にして、私たちの日ごろの生活を問い直すものとされた。

まず、ハンセン病療養所退所者でもある講師から、講題について、「明治以来、長らく国家はハンセン病の発症者を、社会から見えなくしようと強制隔離して棄ててきた。その歴史が誤りだったと気付けば、戻ることができる。」という意味であると説明がなされた。

又、「差別があるため、私達は(火葬され)煙になって初めて故郷に帰れる(遺骨は帰れない)。無理に押し込められた療養所が、終の棲家になってはいけない。皆さんには、せめて納骨堂の遺骨が里帰りできるように、考え論議してほしい。又、全国には、ハンセン病回復者(元患者)が、1500名余り(平均年齢85才)いる。このひとり一人と出会ってほしい。」と語られた。

(同朋社会推進協議会会長 松下春樹 記)



◆教区指定組推進員養成講座◆同朋会推進部門主管

去る4月7日(金)～9日(日)、真宗本廟・同朋会館において、第13組推進員養成講座後期教習が行われた。昨年9月より組内寺院を会場に、入門講座(2回)と前期教習(5回)を修了した受講者25名の内19名とスタッフ10名の計29名が上山した。参加者は、前期教習に引き続き、講師の黒田進先生(長浜・満立寺前住職)の講義に耳を傾け、座談会で活発な意見を交わした。2日目には6名が帰敬式を受式し、最終日は御影堂で宣誓をして、日常において聞法生活を実践していく決意を新たにしていた。



又、今年3月より第4、5組合同で、5月からは第11組にて、新たな推進員の誕生に向けた標記講座の前期教習が開催されている。

◆大谷婦人会婦人法話会◆真宗大谷派大谷婦人会能登教区連合会主催



「聞法一路」をかかげる大谷婦人会。大谷妙子大谷婦人会会長お迎えし、4月10日(月)に第14回の婦人法話会が開催された。教区内の各支部より、朝早くからお越しいただき、教務所の本堂が今年は617名のご婦人たちで満堂となった。

参加者はご講師の滋野井 光氏(小松教区稱佛寺)の法話を熱心に聴聞されていた。また、婦人会員である各地区の三人の感話は皆様に大変感動を与えた。合唱の仏教讃歌は、みんなで一緒に声を出し、心豊かな婦人法話会になったのではないか思う。なお、推進員の方々には準備・当日の運営とご尽力賜り、感謝の念に堪えない。来年は、第15回目になる。また、皆様と聴聞したい。

(大谷婦人会能登教区連合会 理事 皇昇 恭子 記)

本山・教区事務についてのご連絡

◇教務所事務分担について◇

この度人事異動に伴い教務所事務分担を一部変更いたしました。詳細は同封の事務分担表をご覧ください。当面の間1名減員での体制となり、皆様には何かとご不便やご迷惑をおかけすることになりますが、何卒ご了承願います。

◇人事発令について◇

このたび、4月1日付で教務所員の人事発令がありましたのでお知らせいたします。

【離任】橋本 真（能登教区駐在教導から北海道教区駐在教導）

この度、4月1日付で北海道教区駐在教導を拝命いたしました。能登教区の皆様には2013年8月1日の着任より3年8カ月に渡りお世話になり、誠にありがとうございました。振り返れば、慣れない雪国での生活や自身の至らなさへの不安、真宗土徳の地への畏敬の念、そして期待、様々な思いを抱いておったことが昨日のように思い返されます。

教化においては、伝統を大切に保持しておられる様々な現場にふれさせていただき、また、教区教化本部制の立ち上げをはじめとした教化体制の刷新にも微力ながら携わらせていただいたこと、有難く思います。

そして何より、この能登の水、空気、人の中において家族ともども生活させていただいたことは、真宗門徒の末流として、私を含め家族全員のかけがえのない経験となったこととございました。

本来であれば、お世話になりました皆様に拝眉の上お礼申し上げるところでございますが、略儀ながら紙面をもっての離任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【着任】越岡 慈縁（能登教務所教区雇員から能登教区駐在教導）

2011年より教区雇員としてお世話になっておりましたが、4月1日付で能登教区駐在教導として勤めさせていただくこととなりました。これまで同様に、教区の事業や活動等について皆様とともに歩ませていただきたく存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◇本山経常費完納寺院◇(2017.3.1～3.31迄)

2016年度本山経常費をご完納いただき、有難うございました。ここにご披露申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

第1組	了念寺	浄願寺	穴水組	清琳寺
第4組	遍行寺	正念寺	第10組	徳勝寺
第7組	長徳寺		第12組	託善寺
第8組	専念寺			

◇住職就任◇(教区通信4月号 掲載以降)

第4組 浄因寺 熊野 敬章 2017年3月25日

◇敬弔◇(教区通信4月号 掲載以降)

御生前の御苦勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

第3山方組 徳願寺 住職 瀧岡 昶尚 2017年4月5日
第12組 長賢寺 前住職 長澤 隆静 2017年4月20日

※この教区通信は済美精舎ホームページよりPDFファイルでダウンロードすることができます。適宜ご活用ください。

能登教区教化テーマ ほとけさまに遇いにきたいのち、今ともに生きよう
能登教区教化スローガン 一人一人が親鸞聖人に向き合う生活を
済美精舎ホームページアドレス <http://notokyouku.sakura.ne.jp>

送日

4月27日